闘志をみなぎらせ
行動隊初の総会おわる

新編成での行動隊初の総会が二月一日午前八時半から市民会館でおこなわれた。企業整備反対闘争という至難な闘いを控えており、闘争のバック・ボーンともなるべき行動隊の活躍に期待されているときだけに、隊員たちも決意をあらたにして早朝からぞくぞくと会場につめかけた。

去る十月十七日緊急対策がとりあげられたが、そのなかで当面早急に行動隊、婦人部を組織することがきまった。各支部ではそれぞれ従来からあつた行動隊の再編成に着手し、二十五才以下全員が隊員に編成されるなど、再整備の諸活動がつづけられて今日にいたつている。

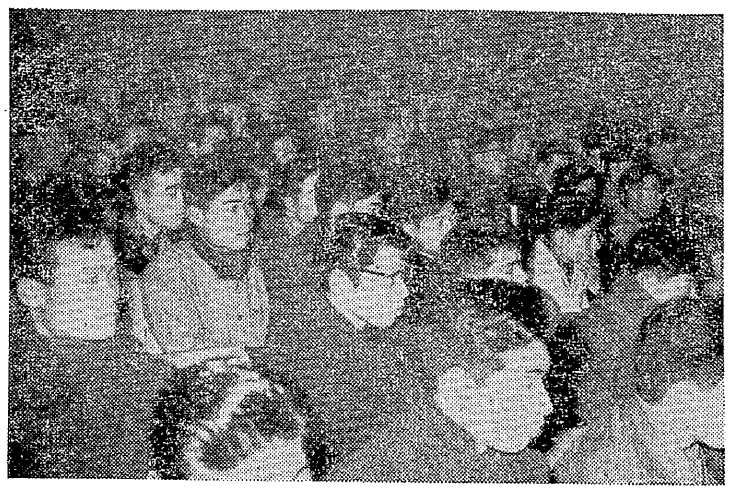
支部では一応編成を完了させているが、本部としてはこの再編成による行動隊を統一しようと計画し仕事をすすめてきた。一方、昨年から噂されていた企業整備案がいよいよ提出され、闘争態勢強化がいそがれるようになり、ここに行動隊初の総会を迎えたわけである。

新編成による行動隊員は総員一・七七〇名、この日午前八時三十分に開会されたが、公休出勤などの関係もあり、一・〇〇〇名が出席早朝にもかかわらず隊員はぞくぞくとつめかけた。

各支部ではこの日のために班会議をひらき総会にたいする趣旨徹底をはかる一方、これを機会に再整備がおこなわれていた。一般経過報告、組合長挨拶などがあり、総会は午前十一時半に終了した。

とくに若い隊員のために会場廊下に「目で見る十年史」の写真を展示したが、三鉱労組の闘いはどんなものかはこれまでいろいろの機会で聞いて知つていたが、その闘いが写真によつて再現されているのを若い人たちは相当関心をもつて見つめていた。

またこの日九大教授向坂逸郎氏が「労働者階級と組合運動」を中心として講演され、大きな感動をあたえた。



講演をきく隊員の真剣な顔（市民会館で）

港務晴れの優勝

この日午後は第一回総会を祝して各支部行動隊の交流親善をかねたソフトボール大会を三作グラウンドでひらいた。総会終了後、各支隊ごとに市民会館から三作グラウンドまで行き、労働歌を約二十分間練習、どんより曇り厳冷えする気候のなかで隊員の意気は昂揚、選手も応援も一体となつて楽しい雰囲気をかもしだした。

試合はトーナメントでおこなわれ四山、宮浦は不戦勝で二回戦にすすみ、本所対三川、港務対製作で第一戦が切つておとされた。

本所と三川の対戦では二十一対五と三川が本所の追随を許さず、大きな差で圧勝、一方港務と製作はこれまた港務の実力の前に製作の奮戦空しく八対一と港務が楽勝、二回戦の港務対宮浦、三川対四山に舞台はうつされた。

第一パートでは三川が一回戦の余力をかり八対三と四山を降ろせば港務また七対一と宮浦を大きく引きはなし堂々と優勝戦へのぞんだ結局晴れの優勝戦は港務と三川の間でえんじられ、声援のなかで両チームとも敢闘をつづけたが、攻守ともまさる港務が五対三と二点のリードで優勝をとげ、三鉱労組行動隊旗は港務チームのものとなつた。

総会、ソフトボールを通じ隊員の親近感はさらに深まり、組合をつつむ情勢のきびしさのなかで、あすからの闘魂を胸に、この日の大会は無事に終了した。

無実の者を殺すな
松川被告オルグ来組

松川事件の闘いは三、四月ごろに予想される最高裁判決を前に、いよいよ最終段階に入つた。松川事件対策協議会（会長広津和郎氏）では、松川被告の全員無罪釈放をめざして最高裁要請月間（二月）現地調査団の派遣、無罪判決要求デー（三月八日）白リボン運動などの行動方針をきめたが、全国民的な運動としてこの闘いをもり上げるため一月十九日から一カ月間の予定で被告団を全国オルグとして派遣している。

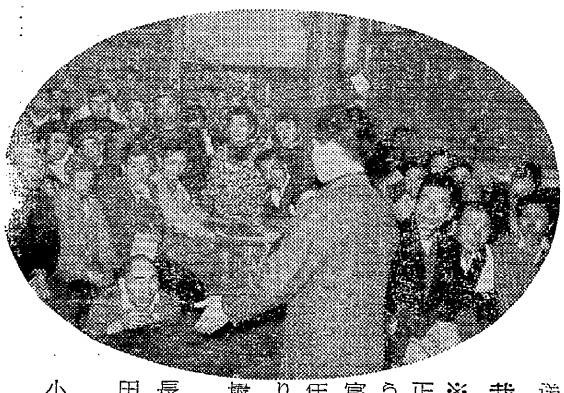
このため福岡地方へは岡田十良松オルグが派遣され、三鉱労組へは二日来組、午後四時から本部大会議室で報告会がひらかれた。

翌三日は港務支部貯炭詰所に岡田オルグをまねき、港保線、貯炭出来高、定額、港機電、港駅、資材分会の人たち約百余名が昼休みに出席して報告をきいた。

岡田被告は第二審で無罪の判決があつたが、「何も知らない仲間が敵の謀略でデッチあげられているこの事件のために殺されようとしています。皆さんの力で無罪をかちとつて下さい」と切々と訴え、事件当日の詳細な説明をあげて、この事件は敵が階級的な攻撃を加えてきたものであり、真実は一つしかありません。

真実を知つて貰うだけでいいのです一人一人がこれをよく知つてもらい皆に話し皆の大きな力こそが無罪をかちとることですとくり返し要望した。

なお、真実をまもり無実をかちとるため、最高裁への要請、獄中の被告へ激励の手紙を一人でも多く送ることとなつた。



裁判官に要請を

※無実の者を殺さない正しい裁判がされるよう、一人ひとりの裁判官に要請をおくろう。

任所、氏名はつぎの通り。

最高裁判所（東京都千代田区麹ケ関一ノ一）

長官　田中耕太郎（新宿区若宮町三九）

田中耕太郎（新宿区若宮町三九）

小谷勝重（世田谷区北沢二ノ三一ノ一）

島保（品川区大井出石町五〇二一）

垂水克己（世田谷区赤堤町一ノ五）

藤田八郎（豊島区高田本町一ノ一三七一）

入江俊郎（世田谷区新町二ノ三八八）

池田克（目黒区大原町六ノ二）

高橋潔（千代田区富士見町一ノ一四）

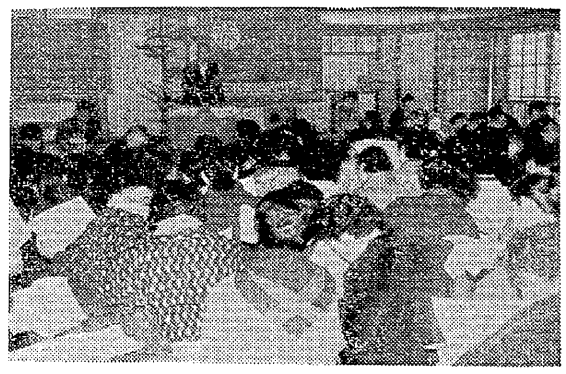
奥野健一（渋谷区代々木大山町一〇六〇）

下飯坂潤夫（世田谷区松原四ノ四四八）

河村大助（目黒区衾町一一五）

高木常七（文京区駒込西片町一〇ほノ一一）

なお要請は誠意をもつて行い「バカヤロー」など百害あつて一利なしです。挑発の口実になるようなことはいましめよう。



少しでも有利に
けい肺懇談会ひらく

四山支部では二月一日午前十時から友愛クラブでけい肺懇談会をひらいた。

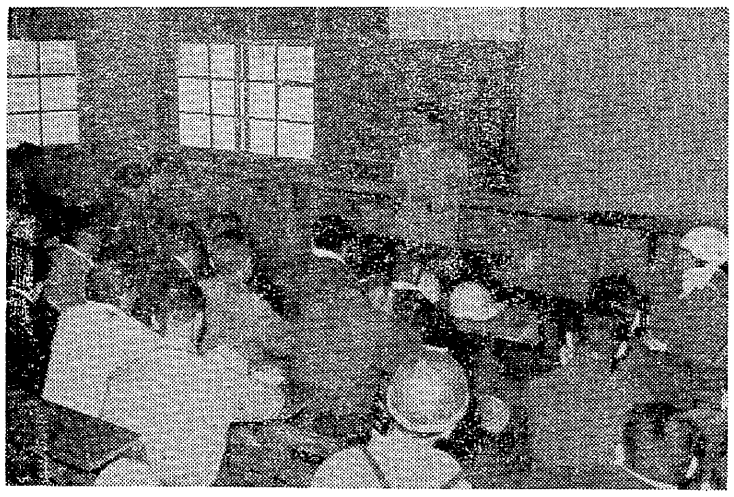
四山支部では三川についてけい肺患者が多く、現在二八六名の人たちがこの不幸な病魔におかされている。患者のあいだでは友愛会を組織して相互の激励、法の研究など組合と連繋をとつて頑張つている。この日、患者はいうにおよばず家族の人たちまで会場につめかけ約二〇〇数十名があつまつた。

懇談会ではまず浦野支部長から会社が出した企業整備案について説明があり、これにどう組合は闘つていかねばならないかがくわしく話された。ついで平和闘争について報告された。このあと高岡厚生部員から「補償の仕組み」を詳細に説明、さいごに本部遠尾厚生部長から「法の現行と将来について」述べられ、質疑応答に入つた。

けい肺患者だけがもつ悩みが訴えられる一方、建設的な意見も出て少しでも有利な方向に闘うことが誓いあわれて、この懇談会を終了した。なお、この日参議院選挙も近まつており、自分たちの窮状を知る代表をぜひ国会に送らなければならないことも発言され、けい肺労働者のために、国会で目覚ましい活躍をつづけてきた阿具根参議をぜひこんどの闘争でも勝たせようと誓いあつた。

他労組とも交流
各支部一斉に態勢固め

三井の企業整備案提示で各支部では組織点検の上にさらに再点検をおこない、完璧な闘争態勢の確立のため、連日情宣をくりひろげているが、以下六支部の闘争態勢の盛り上り、情宣情況の外貌をのぞいてみよう。



四山支部保安講堂での交流情宣

【宮浦】出るものが出たとの空気で動揺もみられない。だが掘下げてみると、まだバラバラにしか理解していないものもいるようだということで、執行部では二回目の情宣終了後、地域、職場の動きを約十日間ばかりみつめ、こんどの情宣対策について徹夜の論議を行い、対策を樹立次日から三たび情宣開始、十六日までに終了する計画である。一方、行動隊では三鉱各支部、東圧、染料、合同労組などと交流座談会を計画、各支隊ごとにすでに開始している。

【四山】企業整備案が出ると執行部では、いままで繰返していた情宣にさらに重点をおき、職場では繰入場情宣を徹底的にやり、地域では班単位にこまめに情宣、朝昼夜と間断なく繰ひろげている。とくにここでは主婦を対象とし、主婦からも組合員に話をすることにしている。今月中旬には外来もふくめた全部の班を終了する。

【三川】二十六日から三日間職場分会単位に情会をひらき着到を実施して態勢強化につとめた。二十八日から二十九日まで社宅の主婦を対象に会社の意図の全貌をしらせた。外来も三、四日にかけて情宣を実施、五日以降は各分会ごとに繰ひろげている。

【本所】各職場ごとに委員が中心となつてすでに情宣を行い、企業整備案の意図をしらせ闘争態勢を盛りあげている。地域では集団社宅を三日までに完了、九日ごろから外来を対象に情宣をおこない、これを約十日間で完了させる見込み。また、行動隊では他支部との交流を計画して六日から実施した各情宣は内容の説明というよりもその背景を重点に実施している。

【港務】企業整備案が出るや全貌を知らせるため、職場単位に休憩時間、交替時間を利用して情宣これを終了した。社宅は主婦を対象に実施、四日に第一段階を終了した。これにひきつづき外来に移つている。今月半ばごろ一応完了する。また、職場婦人会議の開催、五十才以上の老齢者の学習（出席率百%）、行動隊の総会などつぎつぎとひらいているが、とくに行動隊ではどうしたらお互いに融和できるかと、各支隊ごとに現在討議中である。なお、入替採用者の教育もやるなど活発な情宣をくりかえしているが、各所とも興味な関心をよせて組合員は闘き入つている。

【製作】職場では各委員が昼休みを利用して情宣につとめて完了しており、情勢の変化によつて第二段階の情宣を実施することにしている。主婦会では四日評議員会をひらいて六日から各社宅、外来情宣の日程を作製、ただちに着手、十七日までに全分会を終了するように活動している。

行動隊の労働学校
班長泊りこみで勉強

三川支部では企反闘争突入とともに、組織の再点検に力を注いでいるが、組織の中核となつて闘う行動隊、とくにそのなかでもバックボーンとなる班長の強化が急務だと、支部としてはじめての「労働学校」を行動隊班長を対象として開設した。

この労働学校はすでに去る三日からはじめられているが、当初の計画であつた一週間を六日間に短縮して、全員泊りこみでの共同生活のもとに学習、討論に励んでいる。

支部で新編成した隊員は総員五二四名、うち班長は五二名、まず学校は三日（火）が開校式、この日と翌四日が日帰りで、あとの六、金、土が宿泊、日曜の午後四時が閉校式という手順である。

全員一緒に出校するのが理想であるが、三交替者の関係もあつてそうもいかず、五二名を三隊にわけて、三週間にわたつて実施される。

開校式の初日は受講者全員が学校にあてられた集会所に午後五時集合、食事ののち谷端支部長から講座をうけた。

講座は毎日三時間くまれており、熱心な研究討論がつづけられ、三日目は本部から灰原書記長を招いて三鉱労組の歴史をきき、質疑をおこなつた。四日目は支部長、天野先生から当面の諸問題について講義、講義終了ごとに問題について討論、五日目はこの五日間行つてきた問題について内容の反省と討論、最終日の日曜はソフトボールをおこなう。

また、毎日講義のはじまる前と終了ごとは労働歌の練習を約二十分間おこなうことにしている。

要するに、労働学校を通じて働くものの考え方をえつけることに主眼をおいているし、一方、地域や職場などで班長がこんど進出して行く場合、自分の意見や考えを堂々と主張できるように訓練するというのも眼目におかれている。なお、この労働学校が終了した後支部ではさらに一般隊員を対象とした労働学校もかんがえられており、大体期間は二日間、執行部が中心となつて開講するが、各班長が自主的に運営するもようである。

労働学校終了ごとこの班長らのこんどの活動に期待がかけられている。

（写真・集会所での労働学校）